

2日目

文・浜道 写真・後藤

07月20日(日)曇り時々晴れ

起床4:00-出発4:54-杓子岳巻き道-白馬鑓ヶ岳6:47-鑓温泉分岐7:15-鑓温泉  
9:00-杓子沢9:58-大日向のコー-猿倉12:30-柵池(車回収)-食事・入浴-下土  
狩着18:00

夜半の稲妻。雷に深い眠りを覚えないまま早朝を迎えた。窓の向こうはどうも雨ではないようだ。梅雨のさなかの山行は天気とのせめぎ合いで、賭けに近い。今日は私たちに軍配が上がりそうな予感がしてきた。

今日は計画変更で、白馬～白馬鑓～猿倉になった。もう一泊出来れば、当初の予定の唐松岳までの時間は出来たが、帰りの所要時間を考えると難しかった。残念だが、次回にお預けだ。

白馬山荘を5時出発、遠くには八方尾根らしき山が見えている。気温が低いのと、昨日の天気を踏まえてレインウェアを着用しての出発。冷たい風が吹き付ける。村営小屋にはカラフルなテントが沢山見えた。昨晚の雷はどうしたのだろうか？肝の据わった人のテントかしらと思いながら、唐松岳方向に下りの道を30分、今度は杓子岳への上りだ。

斜面をジグザグに苦しい上りだ。所々の斜面にチングルマやミヤマキンバイの花畑も見られる。20分ほど上ると杓子岳の頂上への分岐があるが、鉢巻道に行く。目指すは白馬三山の一つ、白馬鑓ヶ岳(標高2903.1m)。広い尾根道を楽しみながら上る。両脇の緑と花々。そのくぼみに残る白い雪渓。空も青く、夏山の素敵な稜線を堪能できた。1時間ほどで、白馬鑓ヶ岳に到着。

ここは、岩場だけで、何も無い。空がガスってきたので、遠くの山々も見ることが出来なかった。360度の展望を大いに期待していたが残念だった。ここまで白馬岳から約2時間。ここから20分程ガレ場を下り、天狗平と白馬鑓温泉への分岐まで行く。分岐から一気に下る。急な下りのガレ場は怖い。さもない所で滑って転ぶから注意と思っていて、滑った。足が疲労しているから余計に転ぶ。また、気温も上昇して来て、暑い。冷たい風はいったいどこに行ったのかしら？レインウェアを脱がないといられない。

最初の雪渓に遭遇。ストックを山側に差し込んで、ゆっくりと横切る。雪渓の登山道には赤いラインで印がしてあり分かり易い。他は危険という事なのだろう。

アイゼンを着けずに横切れるところはストックを上手に使いながら一気に渡る。大出原という標識を見てから50分程行くと、いきなり岩場が出現する。鎖場、ロープ、沢、滝と盛りだくさん。雨の後なので、大変滑りやすいので、慎重に足を置く位置を決める。やっとの思いで、急な岩場を下りたと思ったら、目の前に大きな雪渓。

ここで、アイゼンを履く指示を受けたので、アイゼンを装着。赤いラインに沿って歩く。親切にロープもあるが、これはアイゼンのない危ない登山者の為なのだろうか？実際、登山靴だけで平気で渡っている人がいた。山を認識していないのは如何なものかと思う。アイゼンを履いた分だけ安心して、早く渡ることが出来た。Lから「まだ、アイゼンを使用するところがあるから手荷物にするように」と指示を受けた。



白馬山荘前

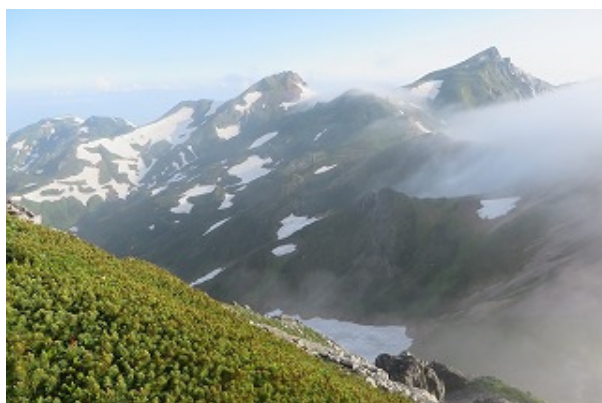


杓子岳上り



深山苧環

白馬鐘ヶ岳



白馬岳遠望



白山小桜



そして白馬鑓温泉に到着。Lは「一度は泊るといい温泉」とのこと。標高 2100mと高所温泉と、混浴できることで有名らしい。ゆっくりしてられないので、お楽しみは次回にという事で、少々休憩をして、露天風呂、足湯見学で下見をしてきた。今回は是非！

まだまだ厳しい下りが続く。暫く行くと、厚さ 1mの雪壁になっているところに出た。アイゼンを装着。そこで作業をしていた、長野県遭難対策協会の方にお礼を言われ、驚き。(安全登山でお礼を言われたのは初めて。昨年も滑落事故で1名亡くなったそうだ。)

安全のためにアイゼンを着けて頂くようお願いをしているとのこと。それって、変ですね。「自分自身を自分で守らないでどうするの」と声を大きくして言いたい。

Lも憤慨していた。「素人は困る！」大きな雪渓を渡り切る。いやはや、まだ半分も来ていないらしい。

すると足場の悪い沢、今にも崩れてきそうな沢に遭遇。恐々渡る。「崩沢」「落石沢」「崩沢・落石沢、石がポロポロ落ちてきます」「杓子沢」と標識ありで恐ろしい。運が頼りだ。そんな命がけの登山道を通り過ぎてやっと、草花の顔を見る。やっぱり登山道はこれがいい。気温も上昇してとにかく暑い。虫も沢山寄ってくる。

花もまったく違う種類になってきた。沢か登山道か分からないくらい水が豊富に流れている。冷たくて、綺麗な水だ。そして、困った事に登山靴の元々の色が分からなくなるくらい泥まみれになってしまい、悲しい。

そんな樹林帯を過ぎ、登山道入り口に到着したのが、歩き始めて7時間30分。休憩少々の、厳しい下りでした。とにかく長〜いコースに本当にお疲れ様でした。L 初めメンバーに感謝です。

#### その他の記述（後藤）

1. 白馬山荘は300名くらいの混雑。連休で混雑が予想されたので、知り合いの白馬観光・M氏に個室を取って貰った。お蔭で「広々楽々静か」だった。
2. 夕食（朝食も）は他の小屋の様に、「何時から」の指定でなく、自分が食べたい時間に並ぶ。私たちは18時にしたがガラガラだった。この方式はイイ。隣席の髭が立派な初老の方と交流。聞けば明日は朝日岳に行くという。アドレスを交換し帰静後調べたら、白馬では有名なガイド・カメラマンで、高久（たかく）正雄さんだった。
3. 早立ちなので朝食は弁当にした。前回、2009年も弁当だったが、ここの弁当は「本当に素晴らしい」の一言。今回も期待だったが、何故か「小屋の不手際で申し訳ない（小屋話）」で、パンセットだった。ガッカリでした。
4. 小屋の資料室に「金時山・金時娘の小宮山妙子さん」のサイン入り色紙が飾ってあった。事情を知らない人は何故??!! でしょうが、山荘と小宮山さんの関係は深い訳。
5. 朝は寒かった。手袋に上着は、ヤッケ・薄手のフリース・夏長袖シャツ・半袖下着。
6. 白馬鑓の上りは北面故、前回以上に花は超素晴らしかった。しかし、白馬って、ウルップ草が多いですね。前は殆どなかった。
7. 白馬鑓温泉は入りたかったが、後のことを考えると躊躇。残念でした。
8. 雪渓のアイゼン使用は、小屋直前と小屋直後のみ。他は傾斜が緩く短いので問題はない。

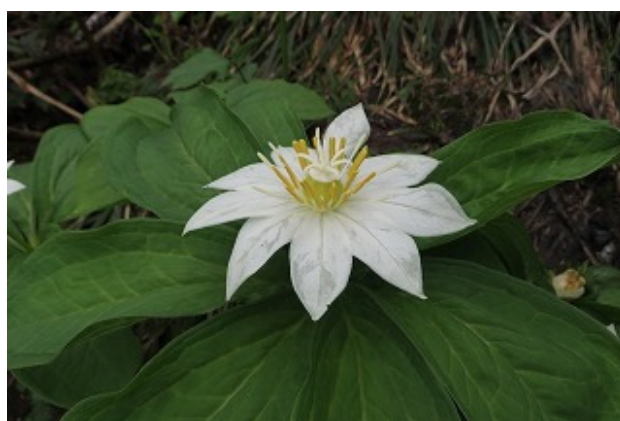




高嶺矢筈母子  
(高嶺薄雪草)



大出原下



衣笠草



猿倉

車百合